

第17回サントリー音楽賞 日本テレマン協会に

— 4月24日に贈賞式 —

第17回（昭和60年度）サントリー音楽賞が、日本テレマン協会（室内管弦楽団、合唱団＝代表・延原武春氏）に贈られることが2月27日、東京・赤坂のサントリービルで行なわれた最終選考会で決定しました。同賞は、前年度においてわが国の洋楽の発展向上に最も寄与した日本人を顕彰するもので、受賞者には賞金300万円が贈呈されます。贈賞式は4月24日（木）、午後2時から東京・丸ノ内の東京会館で行なわれます。

受賞理由は以下の通りです。

日本テレマン協会は、テレマン室内管弦楽団と同室内合唱団を擁し、バロック音楽の総合的な演奏グループとして、昭和38年から関西を中心に精力的な活躍を展開してきました。特にバッハ生誕300年に当たる昭和60年は、定期演奏会（東京・大阪）や教会音楽シリーズなどを通じて、バッハの主要作品（独奏作品をのぞく）を網羅する形でとりあげました。その中のいくつかは現在わが国で望むことが出来る最高の水準のものと認められています。

さらに同年3月には、ドイツ民主共和国文化省に招かれて、生誕300年記念国際バッハ祭に出演し成功を収めました。

設立以来グループが直面した数々の芸術的・経営的困難をみごとに克服したことは、この方面から日本のバロック音楽運動に与えた影響も、また大きいものがあります。音楽運動がすべて東京に集中する傾向の強い現状の中で、東京以外の地区での音楽活動のあり方に新しい展望を与えることになるというものです。

関西からの受賞は今回が初めてで、佐治敬三サントリー音楽財団理事長（サントリー社長）は、「大阪人として、関西から受賞者が出て心からうれしい」と記者発表の席上でいさつしました。

選考委員の宮沢縦一氏は、「この受賞が日本全国津々浦々に及ぼす効果は大きい。地方の団体の活性化に役立つと思う」と述べました。芥川也寸志氏も、「受賞後の波及効果も音楽賞の役割りの一つである」と述べていました。

日本テレマン協会代表の延原武春氏は、選考委員の小石忠男氏の電話インタビューに答え「全然信じられないというのが一番最初の感じです。しばらくたったら皆が大変よろこぶだろうと思います。これまで2回ノミネートされ、ノミネートでも皆でよかったといっていたのに、思いもかけないことです。賞金は皆で相談して、楽器購入補助のための基金など一番有意義なものに使いたい」と受賞のよろこびを語っていました。

なお、東京での受賞記念コンサートは今秋赤坂に新しくオープンするサントリーホールで10月23日に開かれる予定です（大阪は未定）。

以上